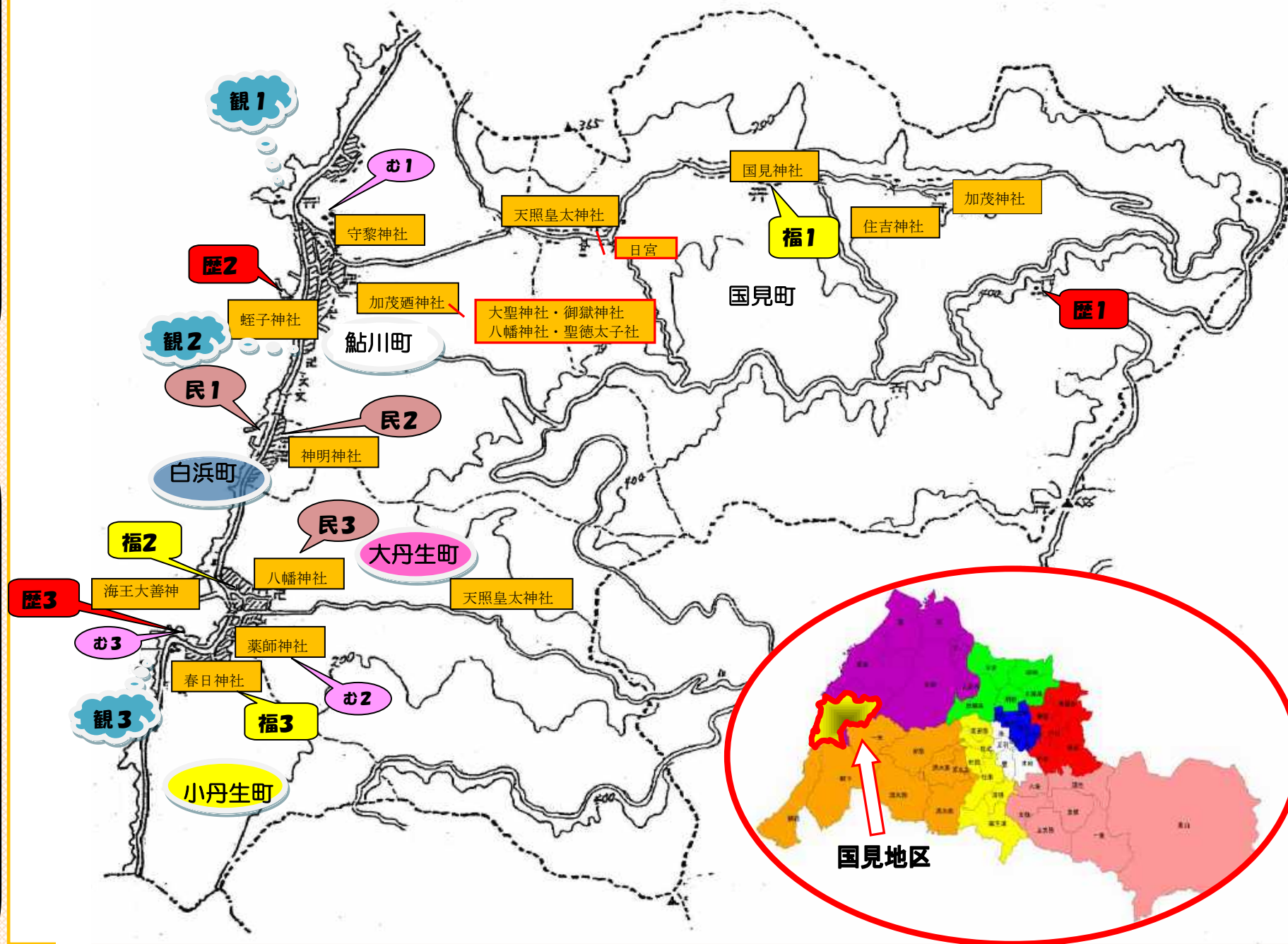


国見地区案内地図



鮎川町 「とんび岩と波の華」 観1



初冬の日本海の風物詩に「波の華」がある。荒れた日に発生し、波が白く泡だつのを花(華)にたとえていう語である。写真の左の岩は「トんび岩」といわれ、特に「波の華」が発生しやすい場所で、観光スポットにもなっている。

鮎川町 「ブルーシー鮎川」 観2



従来から設置してあった異形消波ブロックを撤去し、人工リーフや離岸堤に転用する、日本では数少ない「面的防護方式」の「なぎさリブレッンシュ事業」による消波方式に変更した。この海岸一帯は階段になっていて、自然の客席が出来上がっていて、「まちづくり」等のイベントに有効に活用されている。平成18年、公募により「ブルーシー鮎川」と名付けられた。

国見町 国見神社 「御神体(阿弥陀如来立像)」 福1
＝福井市重要文化財指定＝



神社の御神体は鎌倉時代の作で、像高1.46m、光背2mの等身大の立像で、1本の木から作られた阿弥陀如来像。県内でも類のない貴重なものといわれ、昭和54年福井市重要文化財としての指定を受けた。神社境内には、樹齢数百年と推定される巨木が茂り、壮麗きわまりない神社である。

国見町 きらすがもい 不伐ヶ森の霊水 歴1



今からおよそ830年前、源氏と平家の「倶利伽羅峠の戦い」で敗れた平経盛の重臣一行が国見町に隠れ住んだ。そしてこの水源を利用して千枚田を切り開いた。この水源は、昔からどんな日照りが続いても水量は変わらず、その上冷たくて美味しく薬力長寿のお霊水として、地域の人々から「神様の水」として現在も周辺集落では飲用に供されている。

福井市景観重要樹木 福3
小丹生町 春日神社 「タヅの木」



福井市景観重要樹木 福2
「能登家の松」



大丹生町 民3
「叔行列」



白浜町 民1
大漁祈願「舟祝い」



鮎川町 歴2
蛭子神社 「松平春嶽公歌碑」





この巨木は、日本海の潮風が直撃する断崖絶壁に長年の風雪に耐えて根を張っている。

海岸沿いの集落や国道305号線から眺めた春日神社の森の中では、ひときわ大きくそびえて、地元では、「クスダモの木」と呼ばれていて、平成12年に福井市景観重要樹木に指定された。

- 科・属／クスノキ科タブノキ属 (常緑高木)
- 本数／1本 (樹高約20m、幹廻り3.4m)



この松は、越前海岸沿いの国道305号線が湾曲した箇所にある。漁港の集落と日本海を背景に、枝張り約16m、幹の太さと高さが調和し、この付近でひときわ目立つランドマークになっている。

- 科・属／マツ科マツ属クロマツ
- 本数／1本 (樹高約16m、幹廻り3.6m)



蛭子神社



今から二百数十年前、越前藩主が越前海岸防衛のためこの地に巡視に来た。その際、殿様の行列を見習い、当時の大丹生町の若者が奴の姿でかごを担いで4時、先の一光峠で出迎え、先導したのが始まりだとされている。



『舟祝 (ふないわい)』は、約400年前から豊漁を願う漁師が、船に群がる住民を魚に見立てて、まき餌代わりにもちを撒く行事で、毎年1月2日に白浜漁港で行われている。船から豪快に撒かれる幸運の餅を手に入れば、大漁と海上・家内安全が叶うと伝えられている。



福井藩主「松平慶永」(春嶽)は、民事視察と海防に関して、幕末期越前海岸を度々巡視した。その折「蛭子神社」においてその風景を嘉賞し、即座に筆をとって神社の破風を和歌並びに詩をしたためた。その破風は福井市郷土歴史博物館に保管されている。

和歌は次のとおりである。
「海の幸あたえたまひて朝夕に
桜鯛よれ 浦の春風」

白浜町 民2 節分行事「あまめん」



「鬼が無病息災を祈願」この行事は毎年2月3日節分の日、集落が生まれた約400年前から受け継がれている。「あまめん」は方言で「鬼の面」の意味。「おにめん」がなまったといわれている。鬼の役は主に中学生男子で、町内の神明神社に参拝した後、厚紙に描いた手作りの面とシュロの蓑をまとい、3～6歳児の家を廻る。「悪い子はおらんか」と鬼が突然家の中に入り「良い子になるか」と問い正して歩きながら無病息災を祈願して廻る。

小丹生町 歴3 神の足跡

—「くにみの昔はなし」より—



断崖上部の人の足跡に似た岩は『神様の足跡』と呼ばれ、昔からこの地区に「幾十日も雨が降らず大干ばつに見舞われた時、村中総出で氏神様(春日神社)へ一心に雨乞いを続けたところ一夜のうち大雨をふらした。その後、神社裏の断崖に足跡が付いているのを発見。その足跡を『神様の足跡』と言い伝えている。

大丹生町 民2 薬師神社伝説

—「くにみの昔はなし」より—



今から450年ほど前、(天文年間)大丹生浦の海が何年もの間不漁が続き、その上、水難事故も発生して村人は困り果てていた。

ある夜、長年漁師をしている人が、夢の中で神様のお告げがあり、その通り町内を流れる一光川の河口へ網を入れると薬師如来像一体が網にかかった。そこで、海に見える高台へお堂を建ててお祀りしたところ、その後は海難事故も無く、平穏な暮らしが永く続いている。

鮎川町 御獄山「守勢神社」 佐渡の鬼婆伝説

—「くにみの昔はなし」より—



昔から海上守護の神様として漁師や北前船の船乗りに尊ばれ、海上安全の「おぼらい米」をまくと、無事に目的の港に着くことが出来ると言われていた霊験あらたかな神様。伝説では、このうわさを聞いた佐渡の老婆がこっそり持ち帰ってしまった。しかし、この神様をいくら正面に据えても、必ず鮎川の方面を向いてしまうと、今でも伝えられている。

小丹生町 観3 弁慶の洗濯岩



文治2年(1186年)源頼朝より追討される身となった義経と弁慶主従一行は、北陸街道を避けて、越前海岸を北上し陸奥の領主藤原秀衡の元へ行く途中、この地で弁慶が洗濯したと伝えられている。洗濯板のような自然岩が見事に並んでいる。



大丹生町・小丹生町海岸

地区歴史文化遺産		
歴1	国見町	不伐ヶ森の霊水
歴2	鮎川町	松平春嶽公歌碑
歴3	小丹生町	神の足跡

福井市指定		
文1	国見町	国見神社 阿弥陀如来像
文2	大丹生町	能登家の松
文3	小丹生町	春日神社タマノ木

無形民俗文化		
民1	白浜町	舟祝い
民2	白浜町	あまめん
民3	大丹生町	奴行列

国見のむかしばなし		
む1	鮎川町	守勢神社 「佐渡の鬼婆伝説」
む2	大丹生町	「薬師神社伝説」
む3	小丹生町	「神の足跡」

観光スポット		
観1	鮎川町	とんび岩の波の花
観2	鮎川町	ブルーシー鮎川
観3	小丹生町	弁慶の洗濯岩

歴 地区歴史文化遺産

福 福井市指定

観 観光スポット

民 無形民俗文化

む 国見のむかしばなし